



6/26 一般質問「社会教育について」

教育には「学校教育」と「社会教育」などがあります。このうち社会教育は主に成人を対象としたものとされますが、児童生徒にとっても、学校教育を補完する役割もあるので大切なものです。代表的施設としては「博物館・美術館」「図書館」「公民館」があり、今回、私は図書館と公民館について質問しました。

質問【社会教育における職員の専門性・図書館の場合】

〈市の回答〉

「図書館司書は、一般職の専門職としての採用はおこなっておらず、会計年度任用職員として17名採用。必要な研修等を行い、専門性を高めている。図書館運営には行政の知識・経験も必要で、一般職員はゼネラリストとしての人材育成を基本に、専門的能力の育成にも取り組む」

私は「図書館はスタッフ次第」だと思いますので、専任の図書館司書を正規の職員として採用するべきだと考えます。

質問【社会教育士】

社会教育に関する専門資格として、2020年に

「社会教育士」という称号ができました。住民と行政の協働を担う社会教育士には①ファシリテーション能力、②プレゼンテーション能力、③コーディネート能力、の3つが求められています。この社会教育士を公民館に配置していくことは、市民・ボランティアとの連携、協働という点で非常に良いと思います。

〈市の回答〉

社会教育士は全公民館に配置を目指していきたいと考えており、公民館職員を対象に、社会教育士としての活動ができる講習受講に向けた支援を行っている。

全ての公民館に社会教育士を配置するとは素晴らしい！

質問【社会教育の専門性と政治的中立性】

藤沢市は社会教育について、教育委員会から市長部局へ所管を移す方針を固めました。しかし、教育においては「専門性」と「政治的中立性」が大切なので、市長部局へ移管するのは疑問です。

〈市の回答〉

「人格の完成をめざして行われる教育においては、その中立性を確保することを必須として、創造的で人間性豊かな人材を育成するため、学校教育のみならず、社会のあらゆる場所で教育を享受することができること、所管が変わったとしても、教育、文化、スポーツの振興など、幅広い分野にわたる教育行政が綿々と紡がれるよう、推進していく」

教育とは「人格の完成」と「民主的・社会の実現」をめざす息の長い取り組みであり、必ずしも目先の成果を求めるものではないはずです。ゆえに、専門家を中心とした教育委員会が所管することに意味があり、よって、社会教育の市長部局への移管は制度本来の趣旨にもとる、と私は考えます。



質問【図書館について】

新たな市民会館は【OUR Project=生活・文化拠点再整備事業】という複合施設になり、南市民図書館や市民ギャラリー等が入る計画で、図書館の運営は民営化する方針が示されています。しかし、そもそも図書館は無料利用が原則なので民営化はなじまないと思いますし、各地の定評ある図書館はほとんどが直営です。

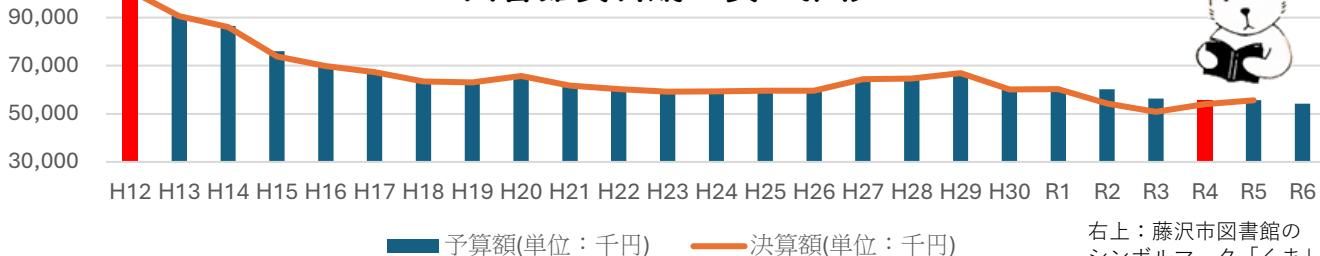
〈市の回答〉

OUR Projectの基本的な考え方として、公民連携を軸とすることをうたっており、民間企業のノウハウやアイデアを積極的に取り入れることとしている。新たな南市民図書館もこの考え方に基づき、最も適した事業者が担っていく。

新たな南市民図書館は民営化ありき、ということだと思いますが、これでは「公民連携」という「手段が目的化している」と言わざるを得ません。



図書館資料購入費の推移



◆6月議会の一般質問を終えて

私は今回の質問をするにあたり、議会事務局経由で総合市民図書館にレファレンス・サービス(※)を依頼しました。



40~50年以前市の刊行物、60年前の新聞記事、市の図書購入費の推移など、多角的に資料を揃えていただき、大変参考になりました。

用意してもらった資料の中に、【利用日本一は藤沢市】という1988年7月20日付の日経新聞の記事がありました。総合市民図書館は1986年に開館して以来、日本図書館協会の「優秀建築賞」を受賞、運営面でも先進的な取組みが評価されました。藤沢市の図書館はすごい、と注目の的となり、メディアによく取り上げられていたようですが、残念ながら当時の面影はなくなってしまったと思います。蔵書数、貸出件数、資料購入費など、図書館の実力を測る指標のランキングについて、総合館開館後、しばらく藤沢市は各指標で上位にランクされていましたが、2000年頃から貸出件数以外はランキング圏外になっています。この頃から図書館の予算が減っていき、今の資料購入費はピーク時の半分ほどです。(上記グラフ参照)

図書館の決め手は専門性のある職員と充実した資料、それを担保する予算。

つまり【人、モノ、金】につきる、ということかと思います。そして私が残念なのは、不十分な予算や職員配置の結果、市やボランティア、市民みんなで図書館の将来を考えよう、ということが無いまま「民間からの提案に期待する」という姿勢です。引き続き、図書館民営化の見直しと、専門職員の採用と配置、そして十分な予算配分を求めていきます。



※レファレンス・サービスとは

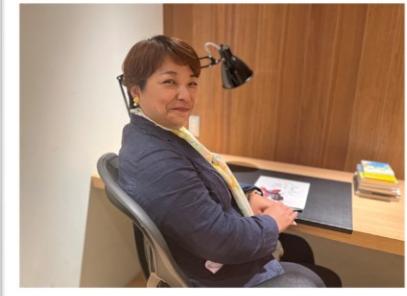
調べもののお手伝いをするサービスのことです。資料・情報に関する相談や質問に応じます。総合市民図書館の調査研究室では、辞典・年鑑・白書などの参考図書や藤沢・神奈川に関する地域資料を常置しており、職員が調査・研究の援助をします(藤沢市総合市民図書館HPより)

右上: 藤沢市図書館のシンボルマーク「くま」

Column



定例会が始まる前に、青森県八戸市の【市立書店】を見に行きました。名称は【八戸ブックセンター】です。これは書店の機能だけでなく【本のまち八戸】をめざした「本のまちづくり」の拠点施設で、一般



5/24 八戸ブックセンターの「カンヅメース」にて

書店と協働したイベント開催、本にまつわる展覧会のためのギャラリーや読書会用の部屋もあります。特筆すべきは、作家をめざす人のためのセミナーや、執筆のために「缶詰」になれる部屋まで用意して貸し出していることで、大変ユニークです。

一方、本市には、特徴ある大型書店がいくつもあります。本の世界を盛り上げる、という意味で新施設での本の展示ギャラリー、本に関連するイベント開催など「本によるまちづくり」は八戸ブックセンター型もありかな、と思いました。

また、最近【STEAM教育】という言葉がよく聞かれるようになりました。サイエンス、テクノロジー、エンジニアリング、アート、マスマティクス、の頭文字です。「『学校教育』では『プログラミング教育』」という形で導入されていますが、社会教育では【科学館】や博物館、美術館での学習も考えられます。このような夢のある政策をめざしたいと思います。



6/16 田んぼのジャンボタニ駆除にて

柳田あゆ 生まれも育ちも鵠沼海岸、現在は片瀬山在住の「引地川のあゆ」です！2023年4月初当選(1期)。1971年生まれ。藤沢市立鵠南小、玉川学園中・高等部・玉川大学農学部農学科卒業。父は元藤沢市長・衆院議員の葉山峻。父の秘書、あべともこ衆院議員の秘書を務めました。

今年度は、子ども文教常任委員会、補正予算委員会、災害対策特別委員会、に所属しています。

～鮎は河川環境の指標生物～

私の「あゆ」という名前の由来は魚の【鮎】です。

「引地川をきれいにする」という父の思いがこめられています。

